

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272400631		
法人名	有限会社 福祉の里		
事業所名	グループホーム福祉の里		
所在地	037-0205 青森県五所川原市金木町中柏木鑑石342-2		
自己評価作成日	平成26年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成26年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・温泉の旅館部を改修しており居室は和室で広く、窓からは四季折々の風景を楽しむことができ安心感があります。 ・殆どの方がホールでテレビを観たりカラオケ等レクリエーションを楽しみながら日々を送っています。 ・買い物等の個別対応をしたり、その時々の方々の希望に応じた対応に努めています。 ・心身の状況にあわせて、かかりつけ医や協力病院と医療連携をとりながら支援しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームは郊外に位置しているものの、地域住民の生活が感じられる距離にあり、孤立感はない。経営者が所有する桜林を背に、三方を田園に囲まれ、ナナカマドや白木蓮等の木々も多く、風光明媚な環境にある。春は桜、実りの時期は黄金の稲穂、そして紅葉と利用者の目を楽しませている。旧温泉施設を利用して、居室は広々として暮らし易く、窓からの眺望も良く、長閑な雰囲気である。行事やレクリエーションに力を入れ、出来る事は褒めて自信を持たせ、出来るだけ自立するように支援している。認知症の進行や機能低下で重度化が進み、殆どの方が車椅子利用であり、安楽・安全な介護を確立するよう、現場からも積極的に意見が出され、反映されている。運営推進会議のメンバーや地域婦人部の協力もあり、地域との連携も良好に維持出来ている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々の方々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的で落ち着いた雰囲気の中、安心した暮らしができるよう理念はホールに掲示し、いつでも誰でも確認できるようにしている。毎日のミーティングやケア会議で個々の状況を常に報告し話し合いを持っている。	施設長・役員・職員で話し合い理念を掲げている。職員は日頃から理念に基づいた支援の展開に努め、個々の思いを大切に安心出来る生活を支援している。又、地域住民にグループホームを開放し、繋がりを確保している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の婦人部の方々が行事に参加してくれたり、山菜等の差し入れがある。花見の時期にはご家族や運営推進委員に声を掛け、カラオケ等を一緒に楽しみ交流を持っている。利用者の重度化により地域活動への参加はなかなか困難である。	認知症・身体機能の重度化が進み、地域行事参加は難しく、グループホーム内・外の行事に参加を呼び掛け、婦人部の踊りや、おやつ作り等の協力を得ている。広い敷地内に植えられた桜が満開の頃には、家族・地域住民参加で花見を行い交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	救急法の講習を受ける際、地域の方々にも声を掛け、一緒に学び、修了証書を頂き喜ばれた。また、そのときに入居者の方々との交流を持ち、認知症の行動面についてなど理解を深めて頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、行政や地域の方に参加していただいている。運営やサービスの説明、日々の活動状況報告・相談をして、意見やアドバイス・協力をいただきながら質の向上に努めている。また、職員も会議に参加したり、職員会議に課題を提供、報告している。	参加メンバーは定着し、隔月で実施しており、グループホーム側から状況や、困難事例等の報告があり、参加者から対応方法の助言や、行政サイドの支援も獲得出来ている。又、重度化による介護機器の導入に向けて、メンバーの後押しを受け、設置に至っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の職員が毎回出席して、新しい情報の提供や提案をしてくれる等情報交換している。その他、窓口や電話でいつでも相談・助言を頂くことができる。又、生活保護費受給者についても、担当職員の訪問が定期的であり、いつでも相談・助言を頂くことができる。	行政との関わりは良好であり、推進会議への確実な参加は勿論、日頃から疑問点は都度確認し、回答を得ている。看取り指針作成に当たっては、細かく助言を受け書類を整備した経緯がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルを作成し、職員に周知している。入居者7名は日中ホールにて職員の見守りを受けている。玄関の施錠は夜間だけで、日中は鍵をしておらず、環境整備の見守り、廊下に監視カメラを設置して事故防止に努めている。	グループホーム独自のコンプライアンスルール(利用者権利擁護指針)を作成し、全職員に配布すると共に、ホールにも掲示し周知徹底している。拘束・虐待に該当する行為が再確認出来、拘束をしないという意識が確立されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的、精神的なものを見逃すことのないように努めている。職員間で小さなことでも報告しあうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修、内部研修を通じて理解を深めるよう努めているが、当ホームで活用している方がいない事もあり、必要性和活用の理解が不十分にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、本人や家族の思いを確認し、不安や疑問点を聴きながら重要事項説明書等の説明をし、理解・納得をしていただいて同意を得ている。追加や変更があれば契約時同様に同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の声に耳を傾け、家族の面会時や電話で近況報告をしたり話し合いをして、利用者や家族がなんでも話せる雰囲気作りに努めている。	基本的に利用料は窓口払いとしており、月1回の面会を確保し、生活の様子や、医療的な部分で変化があった場合は細かく報告しており、要望の引出しにも努めている。内容を再考し、計画に反映する事もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議に代表者が参加して意見交換をしている。毎日のミーティングや日々のコミュニケーションの中で意見や要望、提案を出せる環境づくりに努め反映させている。	1日3回のミーティングで、状況の変化や介護時の留意点、又、ハード面での改善について意見が出されたものを職員会議に出し、経営者も参加し一緒に検討している。実際、環境面で改善された事例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の希望に添えるよう、勤務体制に無理のないよう配慮し、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	すべての職員が研修等に積極的に参加するよう指導している。研修参加後に復命書を提出し、他の職員の内部研修として研修内容の報告をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議やグループホーム協会の研修に参加して、情報交換、交流の機会をもっている。疑問等があった場合は連絡を取り合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、本人の思いを確認し、安心した生活を送ることができるように、入居前からの情報を本人や家族より得て、困っていること、不安なこと、今後についてなどよく話しを聴き、全職員が情報を共有し、本人の安心確保と信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望、今後について、よく話しを聴いて要望に添えるように努め、より良い信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族がどのような支援を必要としているのか良く話し合い、必要に応じて関係機関と連携を図り、柔軟な対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のさまざまな思いを受け止めながら、職員も家族の一員として一人ひとりの喜怒哀楽を共感し、少しずつ信頼関係を築いて理解するように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の本人に対する思いを受け止め、気軽に何でも話せる環境づくりに努めている。また、在宅での生活習慣等やホームでの生活状況等連絡を取り合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	主治医の継続により、受診時知人と会う機会があり、声を掛けられることがある。また、行きつけの美容院や洋品店に出かけられるよう支援に努めている。認知が進んできていることもあり、わからない人がほとんどですが、声を掛けられると返事をしたり笑顔が見られる。	入居前から通っている場所へ(病院・美容院・衣料品店等)の利用継続を支援している。グループホーム車輛を使用し職員が付き添い対応しており、時には美容院側で送迎を担当してくれる事もあり、良好な関係にある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話や関わりがスムーズにいくよう職員が中に加わったり、ホールや食堂での座る場所等を考慮し孤立せず楽しく生活できるよう努めている。入居者同士危険な様子を教えてくれる場面もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院でサービス終了になっても病院と情報交換したり、継続的な支援が必要なケースについては、病院に伺ったり、本人・家族の相談にいつでものれるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動等で本人の意向を聞きだすようにしている。できるだけ入所前の生活習慣が継続できるように家族から情報を聴き、本人の意向を尊重し、希望に添えるよう努めている。	家族から生活歴や習慣を細かく聞き取り、日々の会話や行動を観て思いを把握するよう努めている。又、要望事項を何例か示し、その中から利用者が選択・決定出来るようにアプローチしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	認知症センター方式より本人・家族・担当の介護支援専門員・主治医から情報収集し、一人一人の全体像をアセスメントする為の基本情報を得ながら全職員が把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報共有し、一日の過ごし方、心身状況・残存機能等を把握し、一人ひとりにあった生活リズムに対応できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々のアセスメントにより抽出された課題を利用者、家族、看護師、職員等でカンファレンスを開催し、それを元にサービス計画作成をし、同意を得ながら支援している。支援結果をモニタリング、評価をし、見直しが必要な場合は、再度アセスメントし、話し合いを持ち、サービス計画を変更している。	担当者が本人本位の視点と、家族の意見を吸い上げ、関係者が一堂に会し会議を実施し、計画作成に繋げている。毎月の評価も確実に行われ、書類も整備されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の「介護・看護記録」に毎日の状況や支援経過を記載している。気づきや変化についてはミーティングや申し送りノートで情報を共有している。また、必要に応じて家族への連絡・受診等を行いケア計画の見直しや実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向を確認し、その時々々の要望に迅速に対応ができるようにしている。日々のミーティング等での情報交換で、必要なケアや身体的状況・外出支援等を積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティア・消防等の機関と協力しながら心身共に安全な生活ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院との連携、在宅の時からのかかりつけ医継続をしている。本人の負担を少なくするため予約受診、状態変化の時の早期受診、緊急時対応等適切な医療を受けられるよう本人及び家族・かかりつけ医等と相談しながら行っている。	基本的には主治医の継続を支援、救急外来が必要な時は紹介状を作成し公立病院を受診している。認知症の進行やBPSD(周辺症状)が強く出現した場合は、主治医と相談し精神科受診に繋げている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と24時間連絡が取れる医療連携体制ができています。介護職員は状態に変化があった場合、いつでも相談できる状態にあり早期受診対応や適切な医療を受ける事ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合は安心して過ごせるよう職員の面会を頻繁にしている。また、主治医や看護師と情報交換しながら連携を持ち、早期退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人、家族に看取りについての説明をしている。重度化した場合や終末期のあり方については、本人、家族、かかりつけ医と看護師が早い段階から、話し合いを持つようになっている。その後も必要に応じて関係者、職員と共に情報を共有し合い支援に取り組んでいる。	入居契約時に説明し、意思確認を行っている。実際には、看取りが予測される段階で、本人・家族に再確認し、家族から医師に対応依頼し、病院で医師・家族・グループホーム職員でカンファレンスを行い、共通認識の基、看取りが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に普通救命講習を依頼して、心肺蘇生法・AED使用法、応急処置、緊急時対応等の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に年2回昼夜の防災訓練を行い、併設している施設長宅からも避難できるようポータブルスロープを備えている。又、運営推進会議時に訓練を設け、地域の方の協力を得て意見等を頂いている。	年2回避難訓練実施、消防署の立ち合いもあり、助言を受けている。地域住民の協力を得る為に、行政のアドバイスで運営推進会議実施日に訓練を行い、効果を上げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務上知り得たプライバシーや守秘義務について、職員の雇用時に指導を徹底している。また失禁等での衣類汚染時には人格を尊重し、言葉掛けや処理対応に考慮している。職員間の会話の内容も留意している。	グループホームで作成したコンプライアンスルールの中に、守秘義務や個々の人格の尊重が盛り込まれ、全職員で確認し周知徹底されている。声掛けのトーンも活気と落ち着きがあり、排泄の誘導には特に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で信頼関係を築きながら、ゆっくり話を聞いたり、わかりやすく説明したり、一緒に考えたりしながら、遠慮せずに話ができ自己決定できる環境・雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースで過ごすことができるよう起床、就寝、朝食はその人の時間にあわせる等考慮している。またカラオケ等希望に応じて周りの方々に考慮しながら自由に楽しんでもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば地域の理容院に来て頂き理髪している。毛染め等希望があれば理容院で送迎または職員が送迎している。また、化粧品や洋服の買い物に職員と一緒に選んだり、好みを聞いて買い物の代行をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昔の味付けや調理法をききながら作ったり、旬のものを取り入れるように努め、家族等から野菜や果物等を頂いた時は一品追加して職員と一緒に食事をとっている。また、行事は特別食なので皆さん楽しみにしている。	地域住民や、家族から山菜等を差し入れられ、下拵えの協力を得ている。食事形態は嚥下を優先しながらも出来るだけ希望に添うよう対応し、職員も一緒に食べている。行事食も希望の多い海鮮丼で定着しており、入居者も楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲がなかったり水分量が十分でない状態時は、健康飲料を勧めたり、入居前からの生活習慣も考慮しながら、食べたいものを聞いて食べてもらうなど、状態に応じて対応している。食事の摂取量は生活状況記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に義歯洗浄とうがいをしている。夕食後は洗浄液につけて清潔保持に努めている。洗浄液浸け拒否する方はその都度、歯磨き粉で洗浄している。また、一人でできない方は取り外し等介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	センター方式の日常生活パターンを記録し、排泄パターンの把握に努め、声掛けやトイレ誘導している。訴えのできない方には時間を決めて介助をしている。排泄表に全員の排泄を記録し回数を確認している。	個々の排泄チェック表から、排泄パターンを把握、定時や随時で誘導し、トイレでの排泄を支援している。日中は殆どホールで過ごしている為、誘導時も他者に気付かれないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録を見て排泄状況を把握し、食事の摂取量を観察しながら水分補給や内服薬服用等の指示が看護師よりあり、便通調整をしている。腹部膨満感の訴えがあるときは浣腸や排便を看護師が行う場合もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴週2回(月金)・足浴週1回(水)にきめているが、希望時、失禁時等いつでも入浴することができる。重度化により一般浴槽での入浴が困難になり、殆んどの方がシャワー浴になった為、キャリアチェア購入により全員が浴槽の中で温まることができ喜ばれている。	入浴の他に足浴を行い、保清と夜間の良眠に繋げている。身体機能の重度化で、浴槽の跨ぎが困難となり、補助金制度を活用しリフト付きシャワーキャリアを導入し、全員が足を伸ばして入浴出来るようになってきている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は散歩をしたり、レクリエーションに参加していただきあまり眠らないよう工夫している。落ち着きのない時は、ゆっくり話を聴いたり、一緒にテレビを見たり安心できる雰囲気作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が使用している薬の処方箋をいつでも確認できる場所においている。個別に内服薬を分け服用時に確認し、間違いのないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションは希望を聞きながら、カラオケやボール遊び、輪投げ、DVD(昔話・童謡)等を楽しんでいる。おやつ時間にコーヒータイムを楽しみ体調に応じて後片付けをして頂いている。山菜を頂いた時には調理法を聴いたり、皮むきを手伝って頂くと会話が弾んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	窓から見える野菜や花の生長や収穫を散歩がてら楽しんだり、希望があれば買い物に出かけたり通院の後お菓子を食べて来たり、希望に添うよう努めている。また、理髪の依頼をすると地域の理容院で来訪してくれ、毛染めの依頼があると理容院で送迎してくれる等協力が得られている。	天気の良い日は、広い敷地内に経営者が育てている木や花を眺めながら散歩を楽しんでいる。車椅子利用の方が多く、買い物や外出希望には個別に対応し、受診時は家族と一緒に外食する方も居る。地域の愛好者から、展覧会出展の菊の鉢植えを借り受け、グループホーム内で菊祭りを行い好評を博している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出掛けた時や、模擬店の行事では職員と一緒に支払いをしたり、お金の使い方を忘れないように支援している。お金の管理ができなくなっているため、お小遣いは家族の希望もあり、施設で管理し同意を頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の訴えがある時は、その時ご本人、ご家族の状況に応じて電話を掛け会話をしている。家族から電話があった時は職員が付き添い、不十分でも電話口に出て頂いた後、職員が状況報告をするようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓から四季折々の田園風景等を楽しんだり、玄関・ホール等に季節の花を生けたり、観葉植物・鉢植えを置いている。廊下は行事等の写真や装飾で親しみのある空間作りを工夫している。夏はクーラー、冬は暖房・加湿器で温度・湿度調整し、テレビの音量、職員の話し方に気をつけている。	日中は殆どの方が居間で過ごしており、加湿器を活用し湿度も快適に管理されている。窓からの眺望も良く、田園や桜林が郷愁を誘い心安らぐ空間になっている。大振りのソファで思いおもいに寛ぎ、随所に活けられた花が、目を楽しませてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファに座り、他の利用者と自由に談話したり、テレビ、DVD(昔話・童謡)をみたり、カラオケ・輪投げ・さかな釣り等のレクリエーションを毎日楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、使い慣れた家具や、寝具を持ってきていただき、テレビを持参して楽しんでいる人もいます。居室は畳の部屋で広く、ご家族の面会時にはゆっくり談話ができるよう環境づくりに配慮している。	旧温泉の畳部屋を使用しており10畳の広さがあり、窓も大きく陽光に恵まれ、開放的である。家具や寝具を持ち込み、在宅時と同じ物を使用している。家族の写真や観葉植物等が置かれ、落ち着いた雰囲気になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能を活かした生活を送ることができるよう、できる事は自ら行えるように自室に目印を付けるなど工夫している。また、対応については、誘導したり、話し合いや申し送り等で統一している。		